

研究実施のお知らせ

2023年2月9日 ver.1.0

研究課題名

非小細胞肺癌の骨転移に対して緩和的放射線治療をおこなった患者の予後予測スコアの検討

研究の対象となる方

2016年4月から2023年2月の間に島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科で非小細胞肺癌の骨転移に対して緩和的放射線治療を受けられた方

研究の目的・意義

肺癌の骨転移は進行非小細胞肺癌の30-40%に生じるとされます。骨転移の症状のうち、最も多い症状は痛みであり、約80%に認められます。骨転移に対する緩和的放射線治療の有効率（痛みを除く効果）は50-80%と高く、一般的に行われています。照射方法としては8Gy（グレイ：放射線の量）を1回で当てる「単回照射」と20-30Gyを2-3Gyずつ複数回に分けて当てる「分割照射」があります。痛みを緩和する効果は同じであるものの、単回照射では再び照射を必要とするが高いことが示されているため、元気な方には分割照射、残りの寿命が3ヶ月未満の方には単回照射が良いのでは、といわれています。（肺癌診療ガイドライン 2023.日本肺癌学会）。しかし、骨転移のある非小細胞肺癌患者さんの余命を正確に予測することは難しいです。単回照射は1日で終わりますが、分割照射は約2週間の入院もしくは通院が必要です。照射方法の選択は、患者さんと医療者が共に合意を形成する必要があると考えています。

固形がん全般に用いられる予後予測スコアがすでに存在しますが、本研究ではそれが放射線治療の必要な骨転移のある進行非小細胞肺癌患者さんにも有効であるか検証します。また、有効でない場合は新しい予後予測スコアとして使用できる可能性がある因子を検討いたします。それぞれの患者さんにとって分割照射と単回照射のどちらがより有益なのかを事前に予想できれば、患者さんと医療者との意思決定の質を向上させることができると考えています。

研究の方法

対象となる患者さんのカルテを参照し、分割照射と単回照射がどの程度の割合で行われているか、実態を調査します。またその患者さんの背景（年齢、性別、ECOG PS（パフォーマンス ステータス）、併存症/既往歴、喫煙歴、肺癌のステージ、組織型、骨転移症状の有無、血液検査データ、麻痺の有無）、治療内容（照射線量、照射期間、

照射部位、抗がん剤治療歴)、予定された放射線治療を終了できたかどうか、予後などの情報を収集します。

本研究では、患者さんの個人を特定し得る情報（名前・カルテ ID・住所・電話番号など）を取り扱うことはなく、外部に持ち出すことはありません。研究結果は学会や学術論文等で発表しますが、これら個人情報が含まれることはありません。収集したデータは外部に漏れることがないように、研究者が責任を持って管理します。

研究の期間

2023年3月14日から 2025 年 3 月 31 日まで

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 天野 芳宏

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2023 年 9 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学／附属病院 呼吸器・化学療法内科 天野 芳宏

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2580 FAX 0853-20-2581